



平成30年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年5月15日

上場会社名 株式会社Orchestra Holdings 上場取引所 東
 コード番号 6533 URL <https://orchestra-hd.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 中村 慶郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 五代儀 直美 TEL 03(5794)3743
 四半期報告書提出予定日 平成30年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年12月期第1四半期の連結業績（平成30年1月1日～平成30年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第1四半期	1,714	12.6	123	17.1	122	17.4	80	11.3
29年12月期第1四半期	1,522	—	105	—	104	—	72	—

(注) 包括利益 30年12月期第1四半期 80百万円 (11.3%) 29年12月期第1四半期 72百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第1四半期	19.05	16.41
29年12月期第1四半期	17.19	14.75

(注) 平成29年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年12月期第1四半期	2,838	863	30.4
29年12月期	2,168	783	36.0

(参考) 自己資本 30年12月期第1四半期 862百万円 29年12月期 781百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年12月期	—	—	—	—	—
30年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年12月期の連結業績予想（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,204	22.2	445	22.1	444	22.1	291	21.0	68.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年12月期1Q	4,230,000株	29年12月期	4,229,400株
② 期末自己株式数	30年12月期1Q	－株	29年12月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年12月期1Q	4,229,607株	29年12月期1Q	4,211,516株

(注) 当社は、平成29年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期中平均株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な原因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や所得環境の改善を受けて個人消費も緩やかな回復基調を維持する一方、米国や中国における通商政策の問題などがあり、先行きに対する不安も抱えた中で推移してまいりました。

当社グループの主要事業領域の一つであるインターネット広告市場は、平成29年には1兆5,094億円（前年比115.2%：株式会社電通発表）と前年に引続き伸長しており、中でも主力サービスである運用型広告市場は9,400億円（前年比127.3%：株式会社電通発表）と大きく伸長しております。

このような環境のもと、当社グループは、デジタルマーケティング事業においては、市場成長を着実に捉え、主力サービスである運用型広告を中心に引き続き拡販を進めてまいりました。ライフテクノロジー事業においては、デジタルマーケティング事業と並ぶ収益の柱に育てるべく、新規ユーザー獲得のためのプロモーション施策及び新規タイトルのリリースに注力しました。また、前第3四半期連結会計期間より、新たにソリューション事業を開始し、各種ゲーム、ツール系アプリ開発、その他各種WEBシステム開発等を行ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,714,636千円（前年同四半期比12.6%増）、営業利益123,252千円（前年同四半期比17.1%増）、経常利益122,840千円（前年同四半期比17.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益80,557千円（前年同四半期比11.3%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① デジタルマーケティング事業

当事業においては、インターネット広告市場が堅調に伸長する環境のもと、主力サービスである運用型広告を中心に、既存取引先からの受注額の増額や新規取引先の獲得が順調に推移し、取扱高が拡大しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は1,562,838千円（前年同四半期比7.2%増）、セグメント利益（営業利益）は、234,453千円（前年同四半期比15.6%増）となりました。

② ライフテクノロジー事業

当事業においては、主力アプリである「チャットで話せる占いアプリウララ」、恋愛相談に特化したチャットアプリである「コイウラ」に続き、メンタルヘルス分野における相談に特化した「メンタルケアーズ」、ライブ配信プラットフォームである「スカウトライブ」のサービスを開始し、引き続き新規ユーザー獲得のためのプロモーション施策を講じるとともに、収益拡大に向けた取組みを推進いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は91,140千円（前年同四半期比41.2%増）、セグメント利益（営業利益）は、2,675千円（前年同期はセグメント損失6,063千円）となりました。

③ ソリューション事業

前第3四半期連結会計期間より新たに開始した当事業においては、各種ゲーム、ツール系アプリ開発、その他各種WEBシステム開発等を行ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は62,012千円、セグメント利益（営業利益）は14,115千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比べて669,419千円増加し、2,838,276千円となりました。主な要因は、現金及び預金が685,889千円、受取手形及び売掛金が44,659千円増加した一方で、預け金が96,226千円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比べて588,843千円増加し、1,974,380千円となりました。主な要因は、買掛金が94,992千円、借入金金が560,772千円増加した一方で、未払法人税等が42,499千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べて80,576千円増加し、863,895千円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が80,557千円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成30年2月14日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	365,024	1,050,914
受取手形及び売掛金	828,760	873,420
仕掛品	1,365	3,765
繰延税金資産	9,018	745
預け金	462,854	366,628
その他	122,158	78,152
流動資産合計	1,789,182	2,373,627
固定資産		
有形固定資産	29,973	28,625
無形固定資産		
のれん	136,672	159,306
その他	25,662	29,506
無形固定資産合計	162,335	188,813
投資その他の資産	187,365	247,209
固定資産合計	379,674	464,648
資産合計	2,168,856	2,838,276
負債の部		
流動負債		
買掛金	837,875	932,869
短期借入金	150,000	720,000
1年内返済予定の長期借入金	33,248	26,021
未払法人税等	80,773	38,273
未払消費税等	120,515	76,826
賞与引当金	7,321	-
その他	147,154	173,742
流動負債合計	1,376,887	1,967,732
固定負債		
長期借入金	8,649	6,648
固定負債合計	8,649	6,648
負債合計	1,385,536	1,974,380
純資産の部		
株主資本		
資本金	183,245	183,254
資本剰余金	110,500	110,509
利益剰余金	487,950	568,507
株主資本合計	781,695	862,272
非支配株主持分	1,624	1,623
純資産合計	783,319	863,895
負債純資産合計	2,168,856	2,838,276

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年3月31日)
売上高	1,522,666	1,714,636
売上原価	1,249,427	1,367,845
売上総利益	273,238	346,791
販売費及び一般管理費	167,941	223,538
営業利益	105,297	123,252
営業外収益		
受取利息	1	1
還付加算金	-	259
その他	-	87
営業外収益合計	1	348
営業外費用		
支払利息	292	358
支払手数料	361	360
その他	-	41
営業外費用合計	653	759
経常利益	104,645	122,840
税金等調整前四半期純利益	104,645	122,840
法人税、住民税及び事業税	27,371	34,669
法人税等調整額	4,888	7,615
法人税等合計	32,260	42,284
四半期純利益	72,385	80,556
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	72,385	80,557

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年3月31日)
四半期純利益	72,385	80,556
四半期包括利益	72,385	80,556
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	72,385	80,557
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	デジタル マーケティング 事業	ライフ テクノロジー 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,458,119	64,547	1,522,666	—	1,522,666
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,458,119	64,547	1,522,666	—	1,522,666
セグメント利益又は損失 (△)	202,852	△6,063	196,789	△91,491	105,297

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△91,491千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益 計算書計上額 (注) 2
	デジタル マーケティング 事業	ライフ テクノロジー 事業	ソリューショ ン事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,562,838	91,140	60,657	1,714,636	-	1,714,636
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	1,355	1,355	△1,355	-
計	1,562,838	91,140	62,012	1,715,991	△1,355	1,714,636
セグメント利益	234,453	2,675	14,115	251,244	△127,992	123,252

(注) 1. セグメント利益の調整額△127,992千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3 報告セグメントの変更等に関する事項

前第3四半期連結会計期間より、株式取得した株式会社あゆたを連結子会社として連結の範囲に含めたことに伴い、報告セグメント「ソリューション事業」を新たに追加しております。

これにより、当社グループの報告セグメントは、「デジタルマーケティング事業」、「ライフテクノロジー事業」及び「ソリューション事業」の3つの報告セグメントとなりました。